

ソフト・ハード一体となった防災・減災対策

NAKSS（長崎県河川砂防情報システム）のさらなる活用

スマートフォン版運用開始

避難行動を検討するような場面における防災情報の視認性を高めるため、現在のパソコン版に加えて、新たにスマートフォン版の閲覧サイトを公開しました。



外出中でも情報確認



河川監視カメラ画像配信

昨年、県が管理する河川の29カ所に河川監視カメラの設置が完了し、従来の河川水位や雨量の情報に加え、河川の状況を画像で伝えることができるようになりました。常に最新の状況を確認できるため、適切な避難行動に活用できます。



土砂災害警戒区域等立体確認システム

スマートフォンやタブレットのカメラを用いて、土砂災害警戒区域や浸水想定区域の分布状況を立体的に確認することができます。お住まいの地域の状況をスマートフォンなどで確認してみましょう。



風水害への対策

河川の氾濫を防ぐため、川幅を広げるなどの河川改修事業を進めています。今年度は、県内の32河川で事業を実施しています。また、河川整備と組み合わせた洪水対策としてダムを整備も行っており、現在、川棚川において、洪水被害の軽減と佐世保市の安定した水源確保を目的として、石木ダムの建設を進めています。



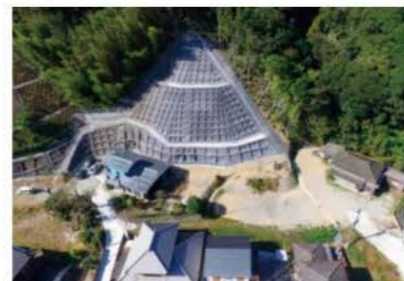
江ノ浦川（諫早市）における河川改修工事

土石流・がけ崩れへの対策

県内には土砂災害危険箇所が16,231カ所あります（全国9位）。大雨などで引き起こされる土石流やがけ崩れは、人命や暮らしに広範囲にわたって大きな被害を及ぼします。そのため、土石流を防ぐ砂防ダムや、がけ崩れを防ぐ斜面対策などを行っています。



土石流対策の砂防ダム（長崎市）



がけ崩れ対策施設（佐世保市）

長崎大水害の発生

長崎県中部から南部に停滞した梅雨前線は、総雨量572mmの降雨をもたらしました。土石流やがけ崩れなどが各地で多発し、死者・行方不明者299名など甚大な被害をもたらしました。
昭和57年7月23日～24日



西浜の町電停付近の被災（長崎市）



中島川眼鏡橋の被災（長崎市）



川平地区の土石流被災（長崎市）

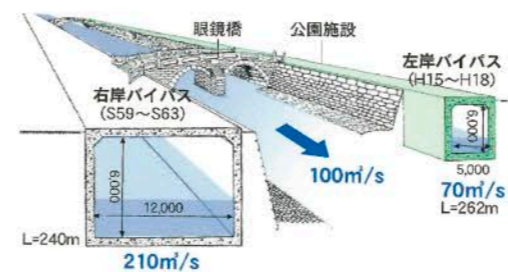


東長崎地区中尾川の被災（長崎市）

長崎大水害後の中島川の整備

長崎大水害において大規模氾濫により、大きな被害を出した中島川では、長崎大水害並みの大雨を安全に流すことができるよう、これまで河川やダムなどの整備が行われてきました。中島川は長崎中心市街地を流れる川として、歴史的にながさきのまちの形成において重要な位置づけとなっていたことから、その整備においては様々な工夫がなされてきました。

バイパス水路設置による眼鏡橋の保存



眼鏡橋地点における計画流量の模式図。計画流量530m³/sを上流のダムも含めた様々な施設により100m³/sに低減して、河川の水を安全に流しています。



整備後の眼鏡橋周辺の状況。バイパス水路の整備により眼鏡橋の現地保存が図られました。

特集
02

あの夏の雨から40年、水との共生を考える。

今年は大きな被害をもたらした「長崎大水害」から40年の節目の年です。本県は、「長崎大水害」や「諫早大水害」を含め、歴史的に幾度も大きな水害を経験しており、これまでも水害に対する様々な施設整備が行われてきており、現在も様々なハード及びソフト対策を実施しています。

あの夏の雨から40年、水との共生を考える。